

【敢闘賞】

宝くじ型ファンド

～「感情」から始まる社会への貢献～

東京理科大学経営学部

松本 晃

関澤 洋斗

常塚 理那

今川 裕貴

(提言の要約)

バブルがはじけた後、日本全体で投資を控える傾向が強くなっている。国内では様々な問題が発生し、世界においても、2008年に発生したリーマンショックによる景気後退から世界恐慌が発生している。さらには3.11の東日本大震災まで発生した。これらの問題が原因となって投資が減少すれば、景気はさらに冷え込み、日本や世界経済は先細りするだけである。

そこで私たちは、新たな投資の仕組みとして「宝くじ型ファンド」を提案する。宝くじ型ファンドでは、宝くじを行うことで人々から資金を集め、その収益金から、日本経済の活性化につながる企業へ投資を行う仕組みである。また、宝くじを用いることにより、より多くの人に参加を促すことができると考えている。さらに現行の宝くじと大きく異なるのは、募金ではなく支援型投資となる点である。このような投資のメリットとしては以下の2つが挙げられる。

- ① 募金ではないため、企業への支援が継続的に行える
- ② 多くの人々が投資に関わり、関心を持つことができる

私たちの提案において、投資を促進させるポイントは人々の心理に働きかける点にある。具体的には、「利他性」と少ない投資金額における「リスク愛好性」に注目する。これらは既存の研究において比較的強い心理傾向として知られているが、本レポートでは、さらに実証分析を行い、私たちの提案が現実的な基礎を持つものであるか否かを検討した。

また、購入手続きはインターネットを通じて行うこととする。この際に振込先をあらかじめ登録してもらい、配当の煩わしさを軽減するなどの措置を取るとともに、以下のような利他性を喚起するような情報発信も行う。

- A. 数字だけでなく、実際に目で見えて投資効果を感じてもらえるよう、映像や画像による支援効果のフィードバックを行う
- B. 宝くじで集められた資金の運用先(支援先)を購入者が選ぶことができるようにする
- C. さらに当ファンドの運用実績(支援実績)を掲載する

これらによって、人々の利他性に積極的に訴えかけることで、投資資金収集に資する。

日本国内での投資比率は、世界に比べて現時点では低い。しかし、私たちの「宝くじ型ファンド」によって多くの人々が投資に関心を持ち、投資が活発になることを願う。

1. はじめに

バブルがはじけ、失われた 10 年と言われて久しい。国内では円高、少子高齢化、多額の国債費などの問題が生じており、世界ではリーマンショックから波及した世界恐慌が起こっている。さらに昨年 2011 年 3 月 11 日には東日本大震災が発生し、原発問題、雇用問題など様々な問題が山積みとなり、今や「日本沈没」といった雰囲気である。しかし、本当に暗い話だけなのだろうか。

一度事実を確認してみよう。日本は 1 億 2700 万を擁する世界第十位の人口大国であり、なおかつ国民が非常に豊かな生活を送っている数少ない国である。また、国民の金融資産は 1400 兆円にもなるといわれ、預貯金額は世界ダントツの 1 位である。ここで重要となるのは、これらの武器を日本がどのように活かし、問題解決へと向かっていくのかということである。現在日本国内では一部の人しか投資に興味がなく、一般の人たちにとって身近なものとなっていない。この投資率の低さを改善するための手段はないだろうか。

そこで私たちは、投資を行う際の人々の「感情」に注目した。行動経済学や実験経済学における近年の研究は、人々は決して利己的なだけでなく他人のためになる行動を好むこと（利他性）、リスク回避的なだけでなく少額の投資ではむしろリスクを好むこと（リスク愛好性）を明らかにしている。私たちの提案するファンドでは、これらの心理的要因に注目する。特に「利他性」に関しては、震災後から、被災地復興支援や日本経済の底上げなどの考えが浸透しており、投資は受け入れられやすい状態であると考えられる。

宝くじの利点としては、買いたいと思えばすぐに購入が可能であることも挙げられる。アンケート結果によると 1 年間に国民の半分以上が宝くじを購入し、今まで購入したことがある人は実に 4 分の 3 を超えている（図表 1）。私たちの考えた「宝くじ型ファンド」では、宝くじを行い、その収益金を日本復興の要となる企業や、日本の活性化に貢献する企業に対する投資の基金として利用する。宝くじを利用することによって、誰もが気軽に投資へ参加することができるため、多くの人々が投資家となり、国内企業も活性化されることが期待される。

以降順を追って、2 章ではグリーンジャンボ宝くじ、3 章では「宝くじ型ファンド」と感情の関係、4 章私たちの提案、5 章メリット、6 章課題、終章と詳しく述べる。

2. グリーンジャンボ宝くじ

震災から 1 年が経ち、東日本大震災復興支援を目的とした「グリーンジャンボ宝くじ」が売り出された。その売上は予想の 67% 増となる 1102 億円にも上り、災害復興に充てられる収益金も予定額の 88 億円から 150 億円に増額された。

グリーンジャンボ宝くじと私たちの提案が異なるのは、私たちの提案が継続的な支援が可能な投資の形式をとっていることである。また宝くじの購入者は、たとえそのくじが外れてしまっても、利他的な行動から心理的利益（満足感）を継続的に得ることが期待できる。これらは、一度限りの宝くじの購入では期待できないものである。

3. 「宝くじ型ファンド」と「感情」

私たちの提案する宝くじ型ファンドが従来のファンドと異なる点は、「リスク愛好性」と「利他性」という2つの心理要因を働きかけることで資金を集め社会貢献を行おうとする点である。以下、このリスク愛好性と利他性について詳しく述べる。

「リスク愛好性」とは、不確実を好む性質である。グリーンジャンボのような市販の宝くじの配当額の期待値は額面の46.3%に設定されている。そのため、もし人々が金融理論や経済学で一般的に仮定されるようにリスク回避的で合理的ならば、そもそも買わないという選択が最良となるはずである。しかし、現実はそのような宝くじの人気は根強く、多くの人々が購入している。カーネマンやトヴェルスキーらの行った実験により、確率の低い場合、人は利得に関するリスク追及を行うことが観察されている(図表 2)。実際に東京理科大学経営学部の学生 74 名にアンケートを取ったところ(図表 3)、少額の場合には人々はリスク追及となり、その後徐々にリスク回避へと向かうことが分かった。

次に「利他性」とは、自身の物質的利得の減少というコストをかけて、他者の物質的利得を大きくする行為や性質のことである。これは経済学で仮定している利己的な人間の仮定に反するが、現実には募金活動などのボランティアが成立している。人々は協力的な選択を好むこと、また不公平な分配をことさら嫌うことなども知られている。実際、私たちが行ったアンケート結果(図表 4)からも、人は誰かのために行動することで効用が増加することが確認できる。

4. 私たちの提案

「宝くじ型ファンド」では、宝くじのシステムを利用して投資家から資金を集め、企業へ投資する。つまり、投資家から集めた資金を企業に投資し、その企業から得られた利回りを宝くじの配当という形で分配する。ファンド化することで、その資金を投資した場合の規模的なメリットや、影響力の強化を図ることが可能となる(図表 5)。

この提案では、日本復興の要となる企業や、今後 10 年後、20 年後といった中長期的に成長すると予想される企業に投資することによって、これからの日

本経済を活性化させるための起爆剤とすることを目的としている。この「宝くじ型ファンド」は投資家への利回りを当たりくじの配当という形で設定する。また企業側は、ファンドからの資金を基に企業業績を上げる。この二つを仲介することでファンドは利益を獲得する。そのため、ファンドを作ることによって投資家と運用プランに選択された企業、そしてファンドとの間で Win-Win-Win を築くことができる。また、実店舗で売買する既存の宝くじとは異なり、全国各地からインターネットで投資家を募り、資金を集める。

現在、宝くじは、一枚 300 円、1000 万通り、計 30 億円分を 1 ユニットとして、販売総額のうち、46.3% が当選者の配当金として、41.1% が発売元の全国都道府県及び全指定都市（政令指定都市）へ納められ、11.6% が印刷代や手数料で 1.0% が社会貢献広報費という内訳となっている（図表 6, 7）。収益金の使途は発売元別にそれぞれ定められているが、主に教育施設、道路、橋りょう、公営住宅、社会福祉施設の建設改修費などに活用されている。

私たちの提案する「宝くじ型投資」では、売り上げの配分は図表 8 のようになっている。1 ユニット (30 億円) 当たり 46% をグリーンジャンボと同様に還元し、3% を新たなファンド賞という配当金として購入者に還元する。この配当率は現在実際に運用されている投資ファンドの平均値を用いている。また、12% を手数料、1% 広報費とし、最後に残った 38% が投資の積立金となる。現在のジャンボ宝くじで考えると、平均的な売上高が 500 億円程度あるので、1 回宝くじを行うごとに約 200 億円ずつ増資される計算となる（図表 9）。また、運用によって得たりターンについては、ファンド賞に加算することとする。これによって、運用成果を宝くじの配当金として反映させることが可能となる。投資積立金は、ファンドが定めたスクリーニングによって選ばれた企業に対して投資を行う。この際、「宝くじ型ファンド」では利他性に働きかけるため、今後成長性があり健全であるだけでなく、社会性が高い会社を選択することとする。

また、購入手続きはインターネットを通じて行うこととする。この際に振込先をあらかじめ登録してもらい、配当金が自動で振り込まれる仕組みを作る。これにより配当の煩わしさを軽減させ、宝くじがより身近なものになると考えられる。さらにインターネットの購入画面（図表 10）では、以下のような措置をとることで人々の利他性に訴える（図表 11, 12, 13, 14）。

- A. 数字だけでなく、実際に目で見て投資効果を感じてもらえるよう、映像や画像による支援効果のフィードバックを行う
- B. 宝くじで集められた資金の運用先（支援先）を購入者が選ぶことができるようにする
- C. さらに当ファンドの運用実績（支援実績）を掲載する

最後に私たちの提案の実現可能性を検討するため、私たちのファンドのポイントである心理的な要因と、投資資金収集との関係を実際に私たちが行った実験から検証する。ここでは、各条件における宝くじの価格と評価額を比較するという実験を行った。図表 3, 4 にはその結果を示してある。図表 3 では縦軸を宝くじの評価額、横軸を宝くじの価格としている。ここから宝くじの金額が少額である場合、人々は宝くじの価格に比べ、価値を高く評価していることが分かる。このことから、リスク愛好性要因が投資に与える影響として、宝くじの販売を促進させ、資金の収集をしやすくすることがわかる。次に図表 4 も縦軸に宝くじの評価額、横軸に宝くじの価格としている。ここから、資金の運用先が自分の利益とは関係のない場合でも、人々の評価額が変化することが分かる。このことから、人々の利他性要因が投資に与える影響として、社会性の高い企業を選択した場合、人々の納得性が増加し、宝くじ購入のインセンティブが高まることがわかる。以上のことは、これまでの研究と統合的な結果といえる。この結果から、私たちの投資ファンドが、現実に運用可能であると考えられる。

5. 宝くじ型投資のメリット

メリットは 3 つ挙げられる。

1 つ目は、購入者が実利的・心理的な利益を得ることである。「宝くじ型投資」では、投資によるリターンがファンド賞として購入者に配当される。そのため、還元率は通常よりも高く設定できる。さらに、購入者はたとえ宝くじにはずれても、支援先を選び、そこに貢献することが可能となるので、利他的な行動をとることによる心理的な利益を継続的に得ることが期待できる。

2 つ目は、多くの人々が投資に関わり、関心を持つことができることである。宝くじという気楽に購入できる媒体を用いることで、多くの人々が投資に参加できる。さらに、実店舗で売買する現存の宝くじとは異なり全国各地からインターネットで購入者を募る。オンライン化によっていつでもどこでも「宝くじ型ファンド」を購入することができ、当選結果を即座に知ることができる。そして、一口 300 円という少額投資であり、債券や株式投資などと比較して障壁が低いと考えられる。また、購入・広告方法に SNS などのインターネットを使うことで、これからの日本経済を担う若者が投資に関心をもち、将来の日本の経済状況を改善してくれると考えられる。

3 つ目は、支援が継続的に行えることである。既存の宝くじでは、収益金は募金として使われていた。そのため支援は 1 回で終わってしまい、断続的なものとなっている。しかし「宝くじ型ファンド」では、回数を重ねるごとに増資することになり、支援の影響力が大きくなっていく。その結果として継続的な支援を行うことが可能となる。

6. 課題

課題は3つあげられる。

第1に、インターネットで購入者を募るため、投資家たちの個人情報やデータの流失、改ざん、消失を未然に防ぎ、柔軟に対応する姿勢が非常に重要である。紙媒体である宝くじ券を発行する場合と比べると、データを取り扱うリスクは高くなってしまったため、定期的なウイルスチェックや、徹底した情報管理が重要となってくる。

第2に、投資する企業をどのように選択すべきかが挙げられる。そのためには、選択された企業が復興の要となり、長期において日本を成長させる企業であるのかという、選択基準を明確にする必要がある。また私的利益ではなく、長期的な国益のため、中立的な態度で運用するという高い倫理観や信頼性も求められる。

第3に、一般の個人や会社などが、宝くじの発売を禁止している刑法187条に、宝くじの販売が抵触してしまう可能性がある。全国都道府県と20指定都市に収益金が収められる現行の宝くじとは異なるため、総務省に特別な許可を与えてもらう必要がある。

7. 終わりに

今回私たちは、人々が宝くじの購入を決定する際の「感情」について着目し「宝くじ型ファンド」を提案した。人は必ずしも合理的ではなく、リスク愛好性や利他性といった感情を持っている。私たちはこの2つの要因を上手く使うことで、単なる金銭的な豊かさだけでなく、本当の意味で人々がより幸福になるのではないかと思い研究を進めた。

今、日本では多くの人々が投資を控える傾向がある。リスクは極力避け、安全性・流動性の高い金融資産ばかりを保有するようになってしまった。しかし、リスク回避を行うだけでは未来はない。リスクとは挑戦であり、挑戦がなければ未来は先細りする一方である。私たちは「宝くじ型ファンド」によって、気軽に投資に参加する機会を創りだし、人々にもっと投資に対して興味を持ってもらい、投資された企業が、日本経済のさらなる発展につながると考えている。そして、購入した宝くじ1つ1つが私たちの未来を切り開いてくれることを願う。

≪参考文献≫

- 友野典男著 (2006) 『行動経済学 経済は「感情」で動いている』 光文社新書
- 澤上篤人著 (2012) 『金融の本領 長期投資の精神と、価値ある人生について』 中央経済社
- 戸堂康之著 (2011) 『日本経済の底力 臥龍が目覚めるとき』 中公新書
- 慎泰俊著 (2012) 『ソーシャルファイナンス革命 世界を変えるお金の集め方』 技術評論社
- 大村敬一著 (1999) 『現代ファイナンス』 有斐閣ブックス

≪参考HP≫

- 宝くじ公式サイト
<http://www.takarakuji-official.jp/educate/about/proceeds/>
- 経済産業省
- <http://www.meti.go.jp/>
- 日本経済新聞
http://www.nikkei.com/article/DGXDASDG1600S_W2A610C1CC0000/
- プロスペクト理論
<http://mediaislandr.org/econ/pros.htm>
- ゲーム理論と利他性
<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~ida/2Kyouiku/1Gakubu/2009/BE5.pdf>
- 地震情報のまとめ速報
<http://jishin.b5note.com/xn-cesq991/3192/>
- 百物語
<http://blog.goo.ne.jp/lx2x5350/e/a4757a28ea1052c67cc04386e5ebaa5e>
- Yahoo!ファイナンス
<http://finance.yahoo.co.jp/>

図表 1 宝くじ購入に関する人口構成（前回比較）

	前回（平成 19 年）		今回（平成 22 年）	
	人数	割合	人数	割合
母集団（全国 18 歳以上人口）	10,568	100.0%	10,632	100.0%
宝くじ購入経験者	7,912	74.9%	7,991	75.2%
宝くじ人口 （最近 1 年間購入者）	5,821	55.1%	5,787	54.4%
宝くじファン （月 1 回以上購入）	1,416	13.4%	1,424	13.4%
年 1 回～月 1 回未満購入	4,225	40.0%	4,186	39.4%
購入回数不明	180	1.7%	176	1.7%
最近 1 年間非購入者	2,092	19.8%	2,205	20.7%
今後の購入意向あり(1)	1,346	12.7%	1,096	10.3%
今後の購入意向なし	745	7.1%	1,108	10.4%
宝くじ購入非経験者	2,665	25.1%	2,641	24.8%
今後の購入意向あり(2)	471	4.5%	306	2.9%
今後の購入意向なし	2,184	20.7%	2,334	22.0%
宝くじ潜在人口 (1) + (2)	1,817	17.2%	1,403	13.2%

※平成 22 年 4 月実施（財）日本宝くじ協会調査
（対象 18 歳以上男女 9,685 人 有効回収サンプル 6,390）

〔出所：宝くじ公式サイトより引用〕

図表 2 リスクに対する人間の態度

リスク態度の4つのパターン

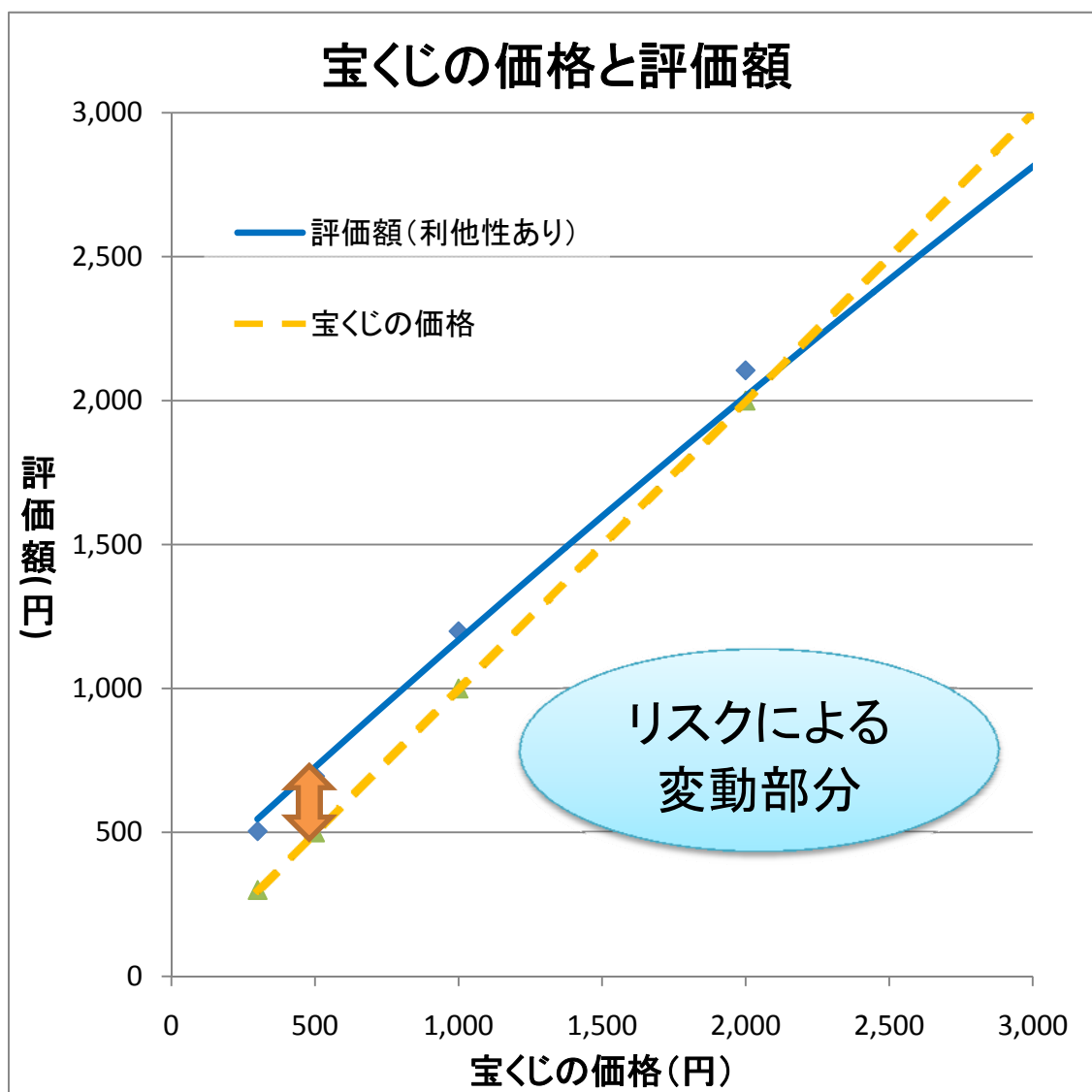
確率	利得	損失
中・高	リスク回避	リスク追及
低	リスク追及	リスク回避

宝くじの場合

- 懸賞金であるため利得
- 当たる確率は低い

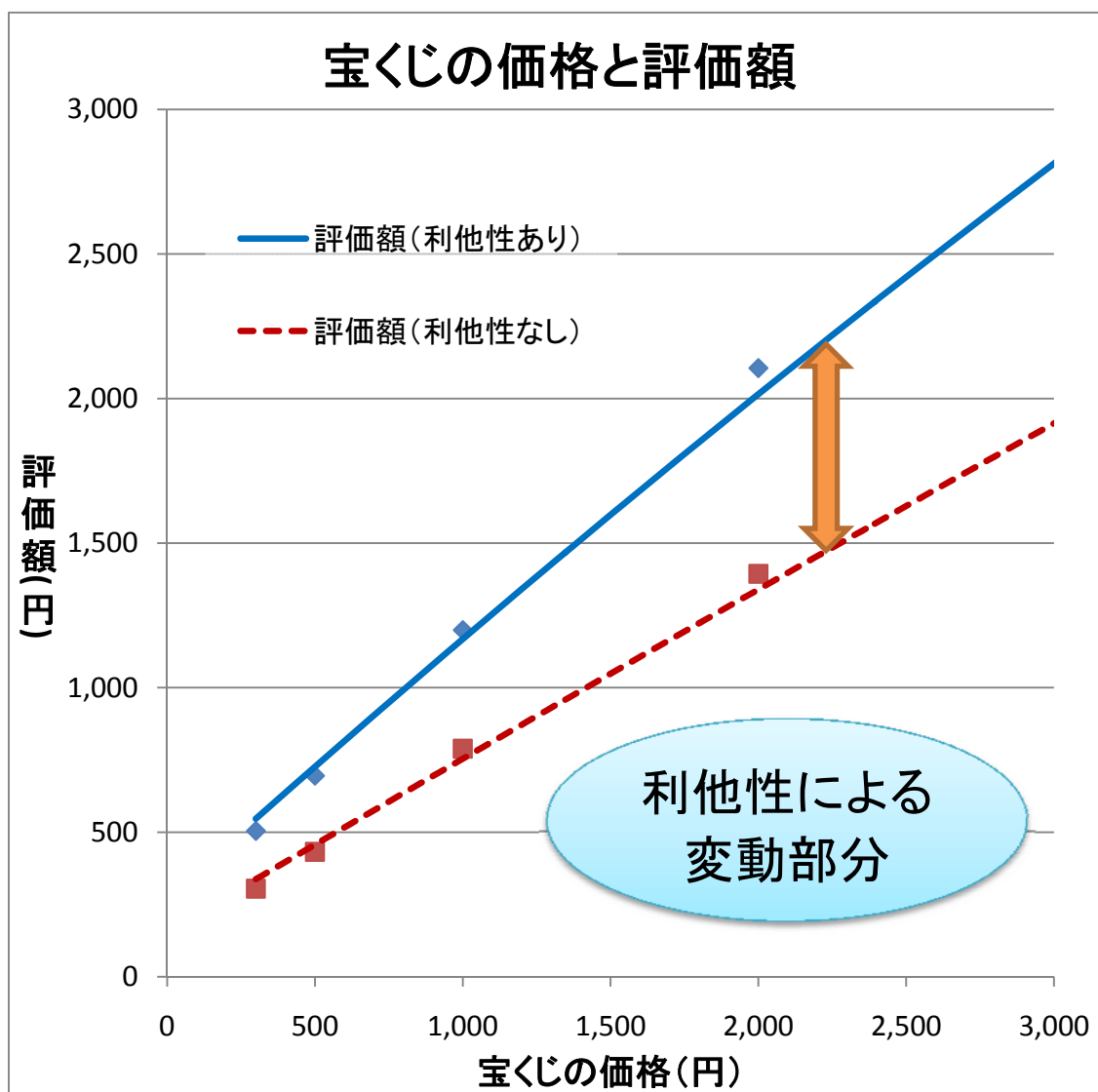
〔出所：『行動経済学 経済は「感情」で動いている』
より筆者作成〕

図表 3 宝くじとリスク追及



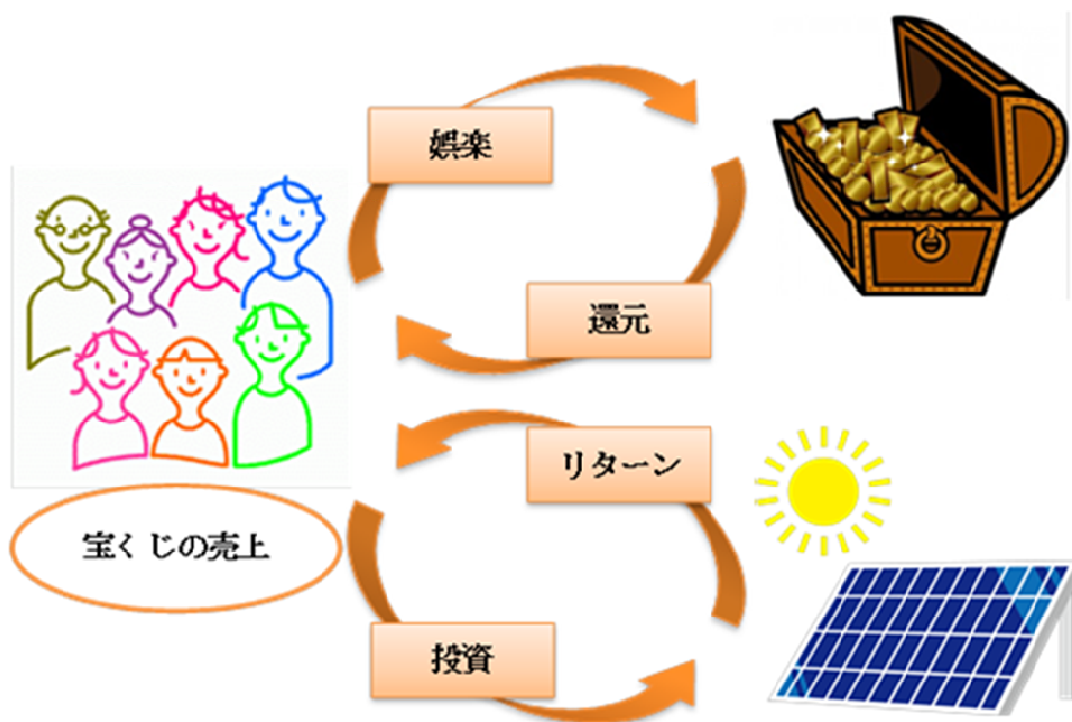
東京理科大学経営学部学生へのアンケート集計結果
(2012年8月実施)

図表 4 宝くじと利他性



〔東京理科大学経営学部学生へのアンケート集計結果
(2012年8月実施)〕

図表 5 売上金の大まかな流れ



1. 宝くじの売り上げから還元 & 投資
2. 収益金を使い事業を運営
3. 事業の利益から投資家たちへリターン

〔筆者作成〕

図表 6 グリーンジャンボの当選確率・期待値

2012年東日本大震災復興支援 グリーンジャンボ宝くじ 当選確率・期待値等					
1ユニット1000万本		1本300円			
等級	当選金	当選金概数	本数	当選確率	当選確率概数
1等	300000000	3億円	1	0.0000001	1000万分の1
1等前後賞	100000000	1億円	2	0.0000002	500万分の1
2等	10000000	1000万円	2	0.0000002	500万分の1
3等	5000000	500万円	10	0.000001	100万分の1
4等	1000000	100万円	100	0.00001	10万分の1
1等組違い賞	100000	10万円	99	0.0000099	10万分の1
5等	10000	1万円	10000	0.001	1000分の1
6等	3000	3000円	100000	0.01	100分の1
7等	300	300円	1000000	0.1	10分の1
期待値	137.99	円			

〔出所：宝くじ公式サイトより筆者作成〕

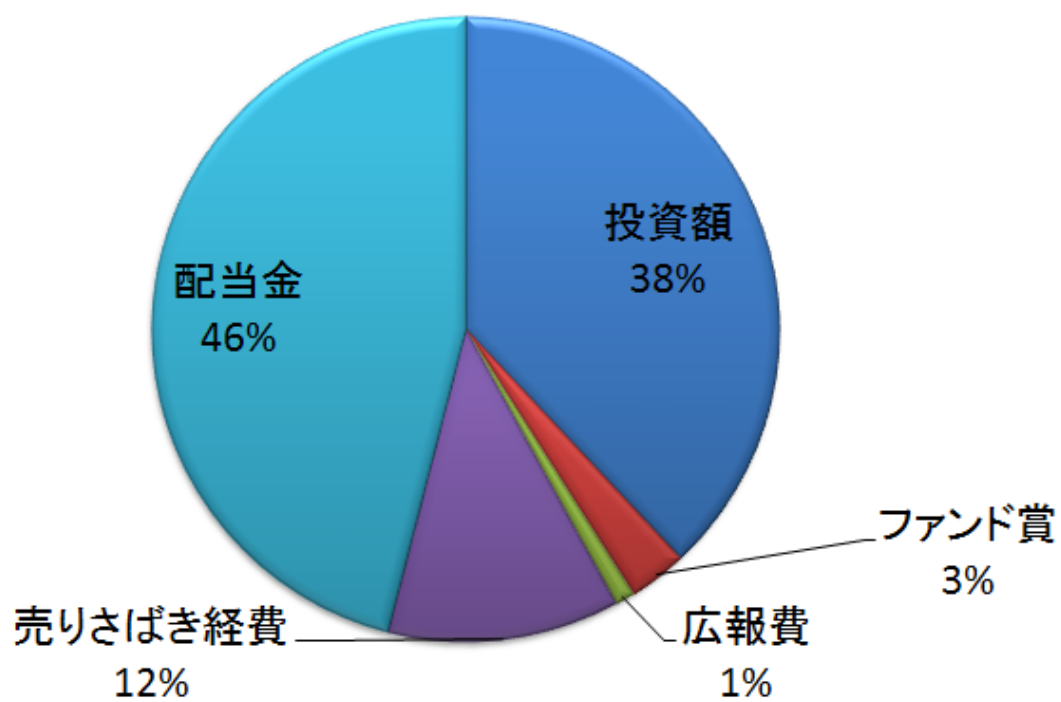
図表 7 宝くじの売上金の使い道



〔出所：宝くじ公式サイトより引用〕

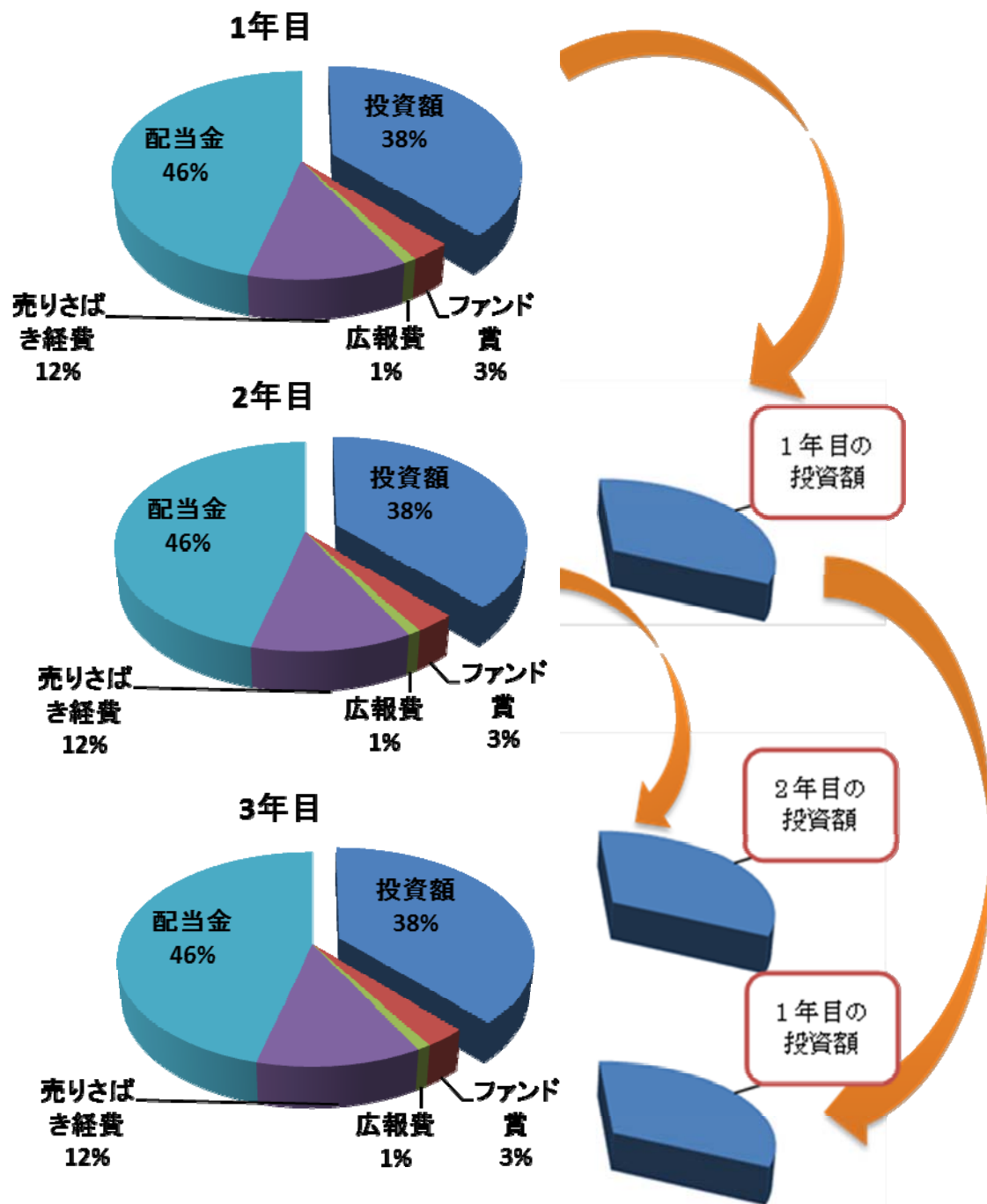
図表 8 売上金の配分

売上高



[筆者作成]

図表 9 売上金の流れ



[筆者作成]

図表 10 マイページ a

XXXXXXXX様

Search
ログアウト

本日でXX回目のご訪問
ありがとうございます。

お客様情報

最新の投融資事例

自分の購入・当選履歴

投資株式会社候補一覧

支援実績

運用実績

新着メールが一通届いています。(1)

新着メール (1) / 既読メール (0)

お知らせ

- 最新の投融資事例を更新しました。(2012/12/01)
- 第一回宝くじ型ファンドの配当を開始しました。(2012/10/19)
- 第一回宝くじ型ファンドの抽選が行われました。(2012/10/19)
- 第一回宝くじ型ファンドの販売を開始しました。(2012/09/24)

[筆者作成]

図表 11 マイページ b

HOME

エネルギー関連

- ・火力発電
- ・太陽光発電
- ・風力発電
- ・潮力発電
- ・地熱発電
- ・研究開発

医療関連


農業関連

製造関連

その他の投融資

最新の投融資事例


東北復興事業



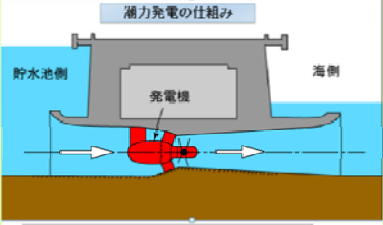
メガソーラー建設

東北の塩害地域に大規模太陽光発電所(メガソーラー)新設に対して出資しました。この事業による総発電量は2800KWになると見込まれ、役780世帯分の電気需要を賄うことが相当します。

事業紹介動画



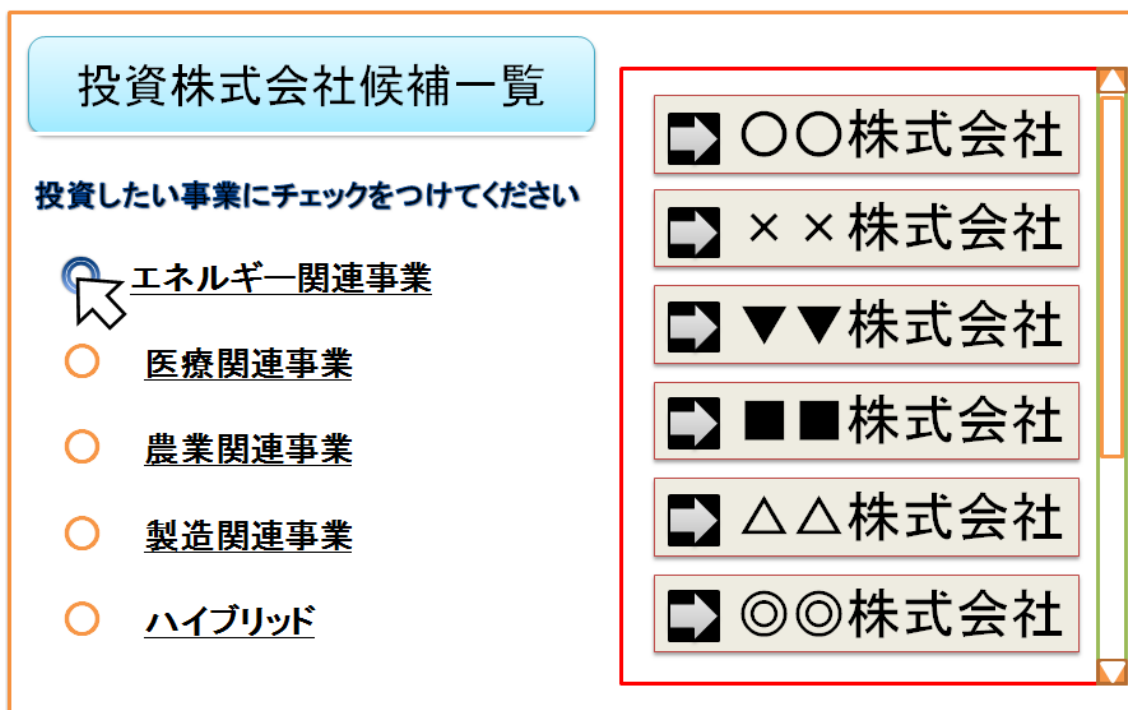
風力発電事業紹介



潮力発電事業紹介

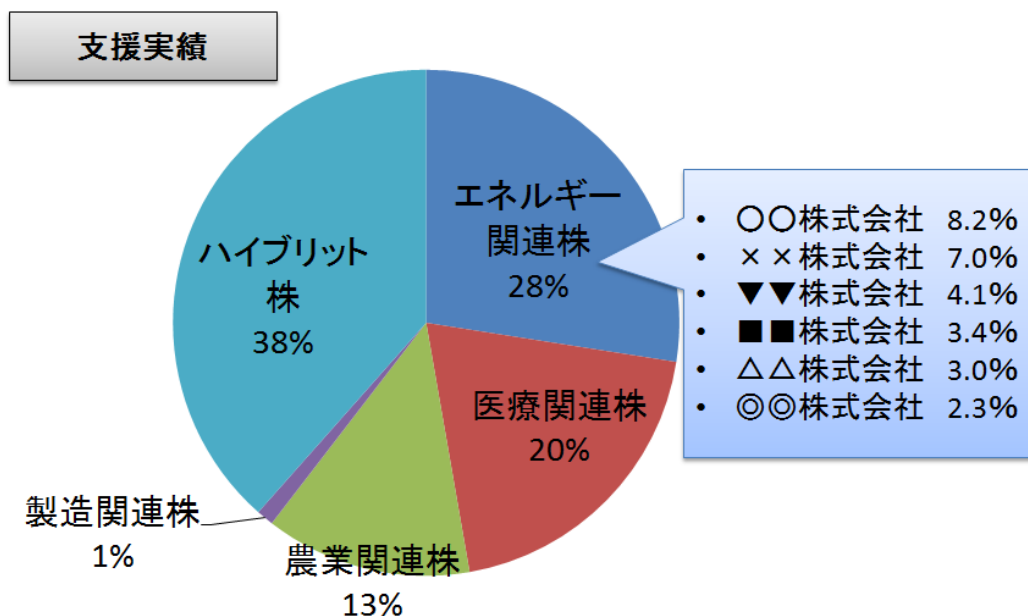
[筆者作成]

図表 12 マイページ c



[筆者作成]

図表 13 マイページ d



[筆者作成]

図表 14 マイページ e

運用実績



[出所 : Yahoo!ファイナンス TOPIX の推移より引用]

補足 アンケート用紙

被災地復興のプログラムとして、被災地の塩害で使えなくなった土地にメガソーラーパネル建設することになりました。そこで資金の調達としてくじの行うことが政府で発表され、みんなに参加することになりました。

ただし、不参加の場合には一定の額を払わなくてはなりません。

この時、(a)か(b)のどちらかを選んでください。また(a)の値が低い場合いくらまで払えますか。

<1-1> (a)300円分のくじを買う (b)150円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-2> (a)500円分のくじを買う (b)250円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-3> (a)1000円分のくじを買う (b)500円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-4> (a)2000円分のくじを買う (b)1000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-5> (a)5000円分のくじを買う (b)2500円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-6> (a)10000円分のくじを買う (b)5000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-7> (a)50000円分のくじを買う (b)25000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

<1-8> (a)100000円分のくじを買う (b)50000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか? _____円

今“金持ち倶楽部の会”というグループが、宝くじを行うことになりました。
宝くじの条件は前頁のものと同様ですが、利益は“金持ち倶楽部の会”の収益となります。

◀2-1▶ (a)300円分のくじを置く (b)150円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-2▶ (a)500円分のくじを置く (b)250円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-3▶ (a)1000円分のくじを置く (b)500円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-4▶ (a)2000円分のくじを置く (b)1000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-5▶ (a)5000円分のくじを置く (b)2500円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-6▶ (a)10000円分のくじを置く (b)5000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-7▶ (a)50000円分のくじを置く (b)25000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円

◀2-8▶ (a)100000円分のくじを置く (b)50000円支払い不参加

いくらまでなら(a)を選択してもよいですか？ _____円